

全国のグラウンドワーク団体の活動実態に関する研究

Survey on activities of national groundwork groups

○宮下健太郎¹, 菅原遼²*Kentaro Miyashita¹, Ryo Sugahara²

Abstract: In recent years, the natural environment has been re-evaluated for the conservation of water and greenery, and the need for citizen participation in the maintenance and conservation of the environment has been stated. Against this background, in 1990, as part of regional revitalization policies and environmental conservation activities, "Groundwork" was established to play a role in building cooperation between the government, companies, and residents. In Japan as well, it has spread nationwide since 1992, led by Groundwork Mishima, which operates in Mishima City, Shizuoka Prefecture.

The purpose of this paper is to obtain suggestions for the development of regional organizations in collaboration with each party by organizing the business forms and activity transitions of GW organizations nationwide.

1. はじめに

近年、身近な水と緑の重要性が再認識される中、地域主導による自然環境の維持管理・保全活動が実施され始めている。特に、行政・企業・住民の三者連携の促進を意図した「グラウンドワーク団体（以下、GW団体と示す）」は、1990年代以降、静岡県三島市において湧水保全活動を実施するGW三島を筆頭に、全国各地で活動が展開されてきた^[1, 2]。

そこで本稿では、全国のGW団体の取り組み内容や組織形態等の活動実態を把握することを目的とする。

2. 調査概要

Table1に調査概要を示す。調査は、2017年当時に日本グラウンドワーク協会^{注1)}の賛助会員であった27団体を対象に、WEB調査を通して2021年現在の活動の有無・事業特性・活動内容を整理した。

次いで、事前に了解の得た9団体を対象に電話でのヒアリング調査を行い、活動内容、組織団体の規模、年齢層、人員の変化、そして活動実施における課題点等を把握した。

3. 調査結果

3-1. 全国のGW団体の活動内容

Table2に全国のGW団体の組織概要を示す。2021年現在、活動を確認できた団体は20団体であった。活動目的として、自然環境保全は15団体、生活環境改善は10団体、環境教育は7団体、社会福祉は5団体確認できた。次いで、各団体の活動内容に着目すると、自然環境に関する活動では、河川環境整備に資する住民の清掃活動や小学生を対象とした自然体験、第一次産

Table1. Survey outline

項目	概要
調査対象	日本グラウンドワーク協会の賛助会員27団体(2017年)
調査方法	WEB調査、ヒアリング調査
調査項目	全国グラウンドワークの活動実態
調査期間	2021年6月～2021年8月

業の活性化に向けた農業体験が実施されていた。社会福祉に関する活動では、高齢者や障害者の活動支援が実施されており、活動地域の特性を活かした多岐にわたる活動が展開されていることがわかる。活動を確認できなかった団体に関しては、構成員の高齢化に伴う後継者不足や安定した財源の確保が困難になることにより団体活動の退勢に繋がっていた^{注2)}。

3-2. 行政・企業・住民の連携状態と各団体の課題点

Table3にGW団体の組織規模と事業特性の概要を示す。ヒアリング調査を行ったGW団体では、耕作放棄地を活用した農業体験や環境教育等の地域特性を活かした様々な活動を展開していた。組織団体の構成員に着目すると、職員雇用数は少なくボランティアによる活動参加が大半を占めていた。また、構成員の人数が増加傾向にある団体は自治体や企業側から安定した補助金や寄付金の支援が行われており、継続した地域貢献活動のための体制構築が図られていた。

次いで、各団体の課題点に着目すると、9団体のうち6団体において構成員の高齢化が挙げられていた。その対応策としては、ブログやSNSを活用した広報活動や組織を担う人材の育成、大学機関や地域組織との連携体制の構築等が挙げられていたが、必ずしも課題解決には至っていない状況が窺えた。

1: 日大理工・学部・海建、2: 日大理工・教員・海建

Table2. Organizational overview of GW organization

No.	団体名	所在地	法人格	設立年	活動内容	方針	活動地域の特性	活動目的				No.	団体名	所在地	法人格	設立年	活動内容	方針	活動地域の特性	活動目的			
								自然環境保全	社会福祉	農村再生	環境教育									自然環境保全	社会福祉	農村再生	環境教育
①	北海道 グラウンドワークトラスト	北海道 札幌市	N P O	09	●	持続可能な 北海道の発展に貢献する こと	都市地域 農村地域	●				⑤	内山川ホテルを守る会	愛知県 豊橋市	任意	05	●	ホテルを地域 に呼び戻す	農村地域	●			
②	グラウンドワーク 西神楽	北海道 旭川市	N P O	96	●	西神楽を 未来あるふるさとに	農村地域	●	●	●	●	⑥	グラウンドワーク東海	愛知県 名古屋 市	N P O	96	●	パートナーシップで 地域の環境創造	都市地域 農村地域	●			
③	霧多布温泉トラスト	北海道 浜中町	N P O	00	●	温泉を未来の 子どもたちへ 残していくこと	農村地域	●				⑦	グラウンドワーク甲良	滋賀県 甲良町	任意	—	—	—					
④	グラウンドワーク 寒河江	山形県 寒河江市	N P O	06	●	地域の環境改善 活動と活性化	都市地域 農村地域	●	●	●		⑧	一宮平成ホテルの会	愛知県 一宮市	任意	00	●	野鳥や虫など さまざまな生物が すめる豊かな環境 を	都市地域	●			
⑤	グラウンドワークいわて	岩手県 盛岡市	N P O	04		解散理由：構成員の高齢化に伴う 後継者不足(2017年)						⑨	グラウンドワーク福岡	福岡県 福岡市	N P O	02	●	誰もが幸せに暮らして いける22世紀の 地域づくり	都市地域 農村地域	●	●	●	
⑥	グラウンドワーク阪神	福島県 南相馬市	任意	10		解散理由：安定した財源の確保(2017年)						⑩	グラウンドワーク都城	宮城県 都城市	N P O	07	●	地域の環境改善 活動と活性化	都市地域	●			
⑦	清水洞の上自然を守る会	茨城県 那珂市	任意	08	●	豊かな自然環境が残さ れた貴重な清水洞の上 地区の資源	農村地域	●				⑪	ASO田園空間博物館	熊本県 阿蘇市	N P O	08	●	阿蘇エコツー リズムの普及	農村地域	●			
⑧	グラウンドワーク笠間	茨城県 笠間市	N P O	12	●	いくつになっても リスペクトされる 高齢者社会貢献活動	農村地域					⑫	日高村グラウンドワーク 推進協議会	高知県 日高村	任意	09	—	—					
⑨	グラウンドワーク三島	静岡県 三島市	N P O	92	●	水の都三島の再生	都市地域 農村地域	●				⑬	生態系トラスト協会	高知県 高知市	法社 人団	10	●	生態系保護の 思想を普及、研究	農村地域			●	●
⑩	グラウンドワーク西鬼怒	栃木県 宇都宮市	N P O	93	●	地域の自然環境の維持 管理 環境教育	農村	●	●	●		⑭	グラウンドワーク真庭	岡山県 真庭市	任意	—	—	—					
⑪	グラウンドワーク日本水工	埼玉県 蕨市	任意	02	●	街路美化活動	都市地域	●				⑮	エコパートナーとっとり	鳥取県 米子市	N P O	04	●	地域の環境改善 活動と活性化	都市地域	●			●
⑫	印旛・手賀沼環境 あつぎ協議会	千葉県 船橋市	任意	—	—	—						⑯	グラウンドワーク大山麓山	鳥取県 江府町	任意	08	●	地域の環境改善 活動と活性化	農村地域	●			
⑬	ちばEDエコネット	千葉県 船橋市	N P O	97	●	共に学び共に 生きを求めています	都市地域	●				⑰	意地地区チビツ子 環境パトロール隊	鳥取県 米子市	任意	08	●	住民主体による 暮らし豊かな 地域づくりを応援	農村地域	●		●	
⑭	グラウンドワークやまのて	東京都 目黒区	任意	—	—	—						「一」な箇所はWEBまたは、行政に問い合わせましたが確認することが出来なかった。											

Table3. Outline of organizational scale and business characteristics of GW organization

No.	団体名	主な活動内容	組織人数(職員)	人員の変化	年齢層	活動頻度	事業規模	三者の連携の有無	課題点		課題対策
									高齢化	財源	
②	グラウンドワーク 西神楽	グリーンツーリズム、 アップルパイ販売、河の体験事業	85名(5名)	減少	全員 60歳超	毎週	—	行政：補助金 企業：寄付金・知恵	—	●	収益を見込んだ 事業の実施
③	霧多布温泉 トラスト	民有地買取、木道の整備、 水鳥の保全	1600名(10名)	減少	平均30歳	役員・職員会議1回/月 定期的MTG	●	行政：助成金・寄付金 企業：広報	—	—	無
④	グラウンドワーク 寒河江	ホテルの里づくり、 ジャズコンサート、コスモス花の里祭り	61名(10名)	増加	平均48歳	理事会2回/月 総会1回/年・臨時総会	—	行政：補助金 企業：会員の企業と連携	●	—	無
⑦	清水洞の上 自然を守る会	公園の維持管理	185名(5名)	減少	全員 60歳超	1回/2週	—	行政：委託・補助金・必 需品	●	●	スポーツ愛好会 子供会との連携
⑧	グラウンドワーク 笠間	「まちの駅笠間宿」 「笠間ふれあい大学」の開講と運営	58名(35名)	不明	平均70歳	隔週	—	有：行政・市民 無：企業	●	—	無
⑨	グラウンドワーク 三島	三島市周辺の湧水河川の維持管理	100名(2名)	増加	平均55歳	総会1回/年 理事会3回/年	—	行政：補助金 企業：寄付金	●	—	人材育成
⑩	グラウンドワーク 西鬼怒	田んぼの学校、ドジョウ水路の草刈り、 水車プロジェクト	50名(2名)	減少	平均55歳	不定期	●	無	●	—	宣伝広告
⑬	グラウンドワーク 福岡	ハーブガーデンの整備、 古民家再生事業	事業ごとに事務局 を設置(50名)	減少	平均50歳	定例会1回/月 理事会1回/2月・総会1回/年	—	行政：補助金 企業：寄付金	●	—	大学と連携 プロジェクト
⑰	グラウンドワーク 都城	デイサービス	16名	増減無し	平均50歳	MTG1回/月 理事会1回/年	●	無	—	—	無

4. おわりに

本稿では、全国のGW団体の活動実態から、組織団体の課題点を把握した。その結果、構成員の高齢化に伴う後継者不足や財源の確保等の課題により、組織活動が消極化している状況が窺えた。また、現在も活動を展開している団体は、他の地域組織と協力した活動が行われていた。

今後、地域資源となり得る自然環境の維持管理・保全を継続的に実施展開するためには、社会動向に応じた地域組織の人材、財源、活動内容を支える仕組みの順応的対応が重要となる。

5. 補注及び参考文献

- 注1) 日本グラウンドワーク協会は、GW団体の全国展開の促進を目的に1995年に設立された団体である。
- 注2) 盛岡市、南相馬市へのヒアリング調査に基づく(2021年8月26日)
- [1] 松下重雄, 三橋伸夫: わが国におけるグラウンドワーク活動団体の組織特性に関する考察, 日本建築学会計画系論文集 No.666, 1397-1405, Aug, 2011
- [2] 松下重雄, 三橋伸夫: わが国におけるグラウンドワーク活動団体の事業特性に関する考察日本建築学会計画系論文集 No.678, 1861-1870, Aug.2012
- [3] 日本グラウンドワーク協会: 「GROUNDWORK TODAY NO.49」2017